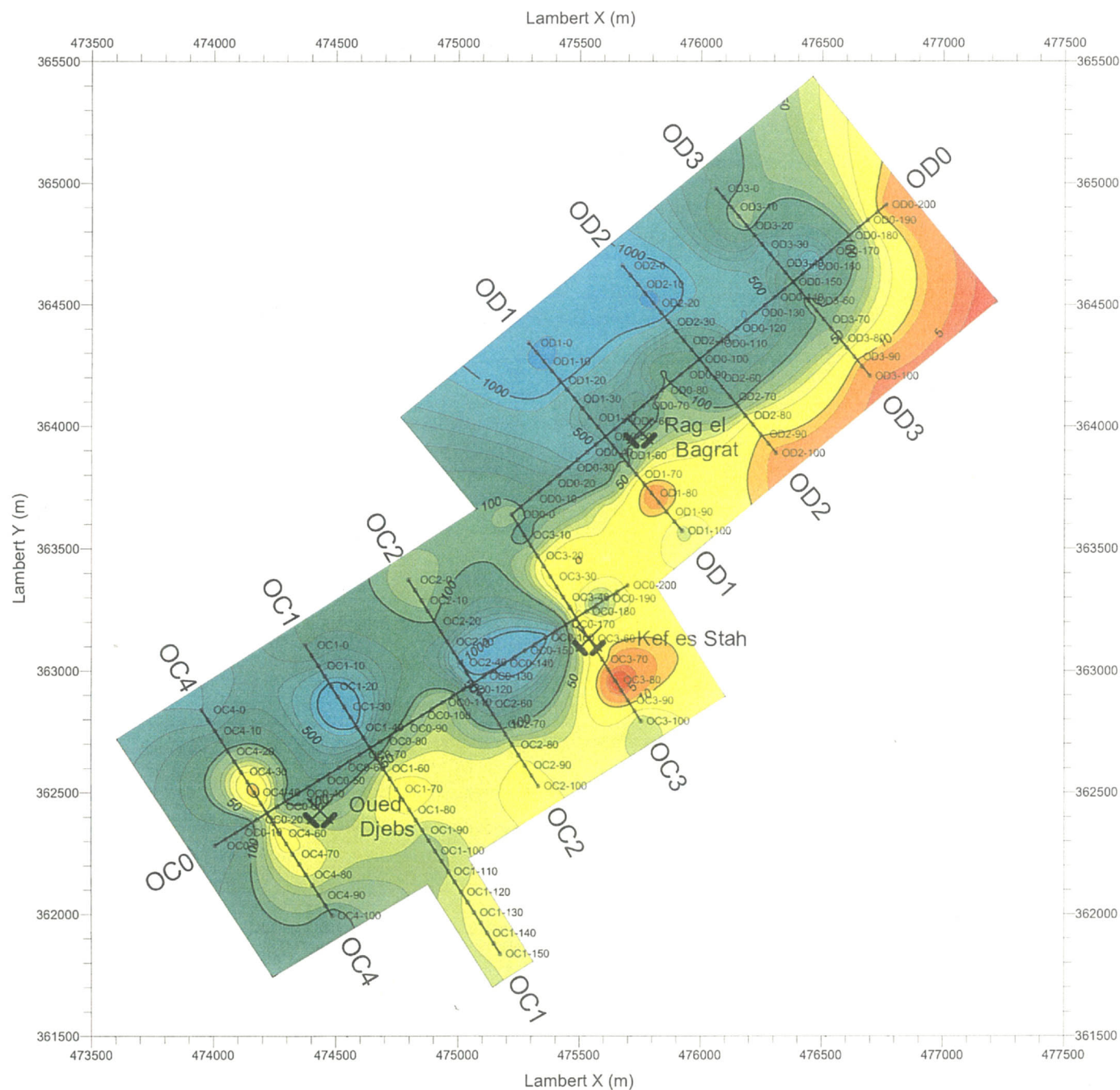


Legend

- Stations
 - Profiles for IP and Gravity survey
 - ⌵ Ancient Works
- Resistivity (ohm·m)
- | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----|----|----|-----|-----|-----|------|------|------|
| 1 | 3 | 5 | 10 | 30 | 50 | 100 | 300 | 500 | 1000 | 3000 | 5000 |
|---|---|---|----|----|----|-----|-----|-----|------|------|------|

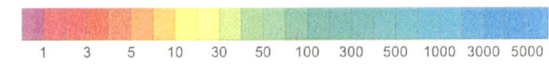
(Scale 1:25,000)

図 113 ウェド・ジェブス OC・OD 地区
解析比抵抗平面図 (標高 250m)



Legend

- Profiles for IP and Gravity survey
- Stations
- Ancient Works
- Resistivity (ohm·m)



(Scale 1:25,000)

图 114 ウェド・ジェブス OC・OD 地区
解析比抵抗平面図 (標高 150m)

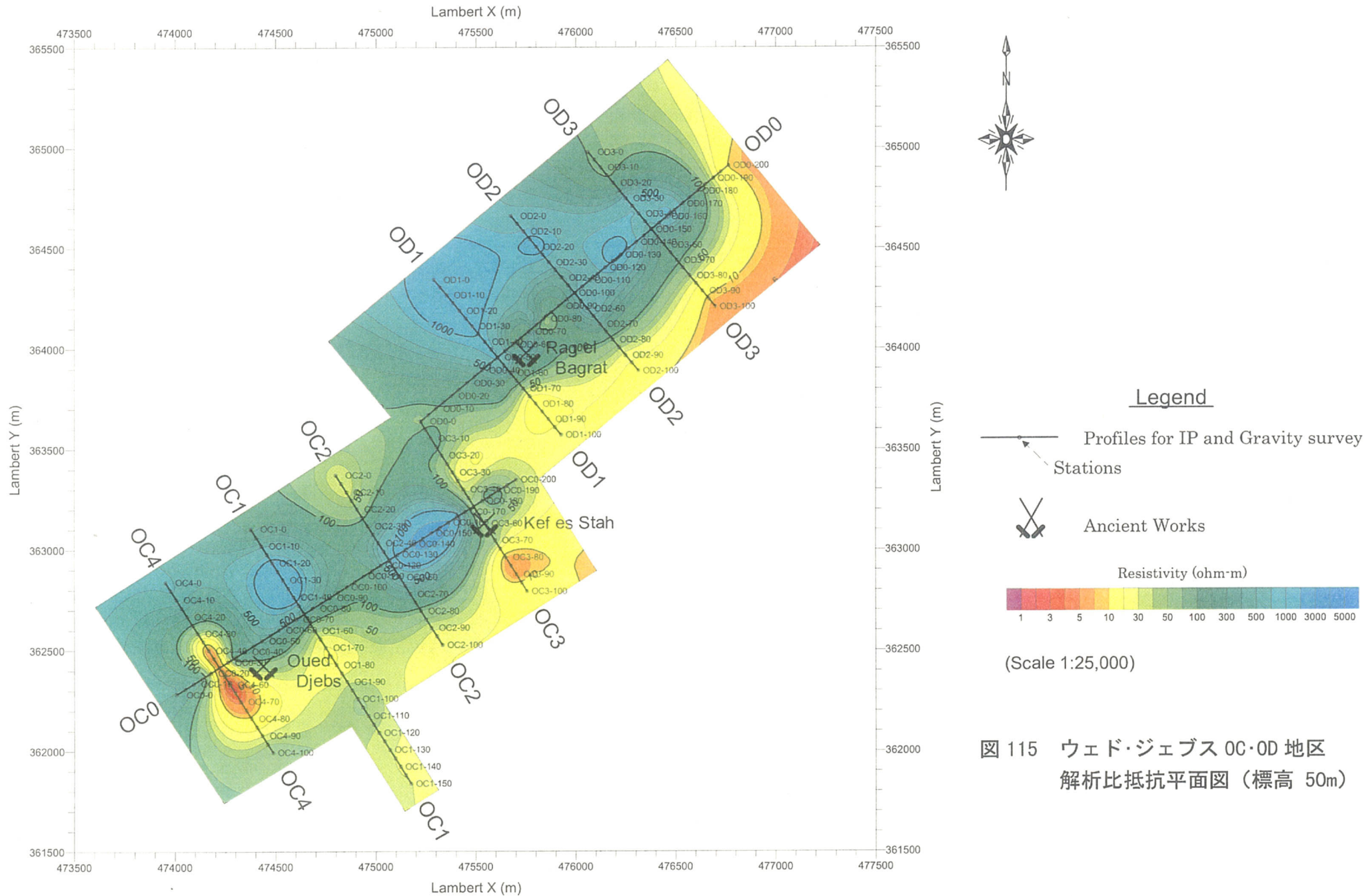


図 115 ウェド・ジェブス OC・OD 地区
解析比抵抗平面図 (標高 50m)

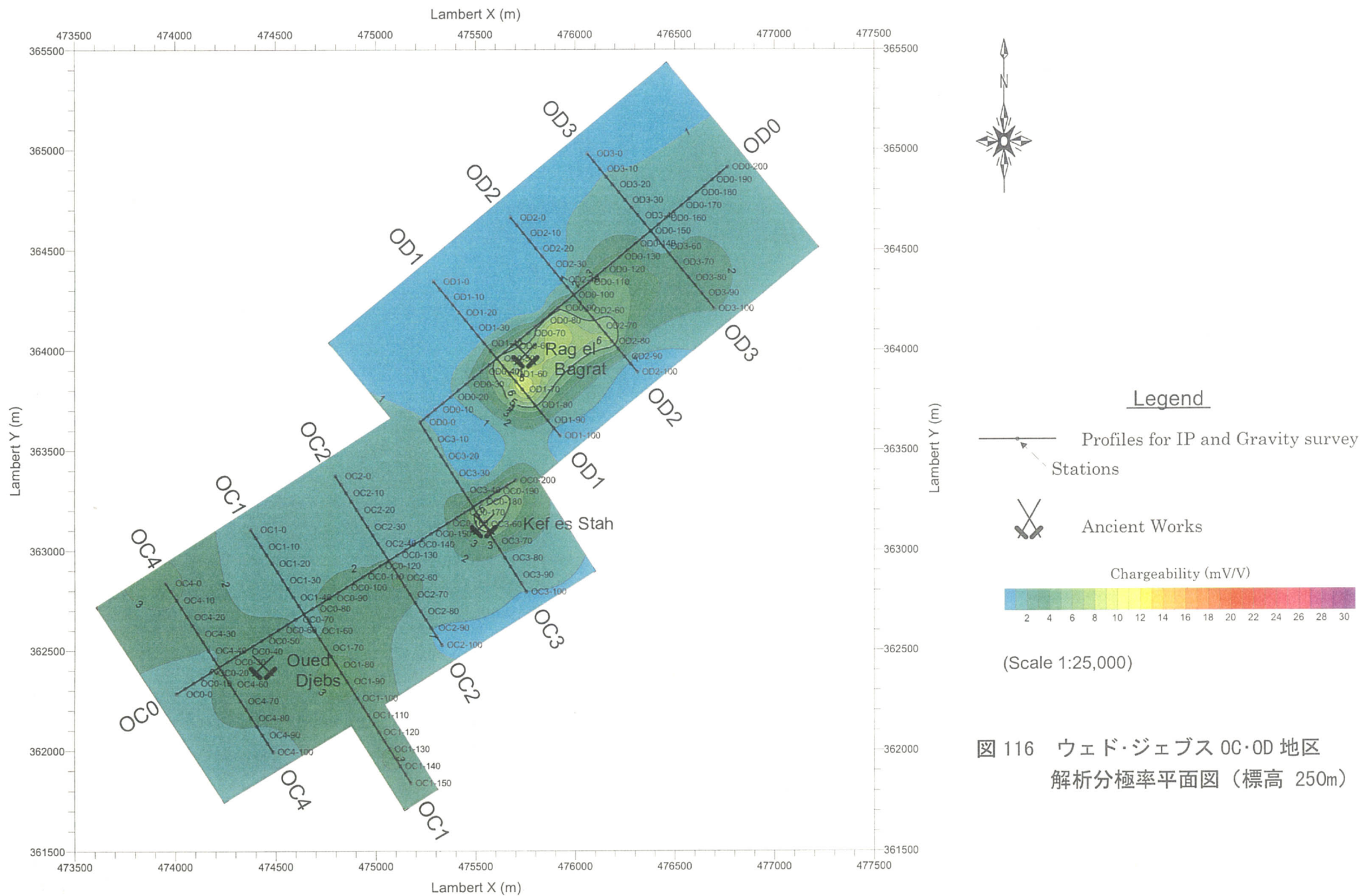
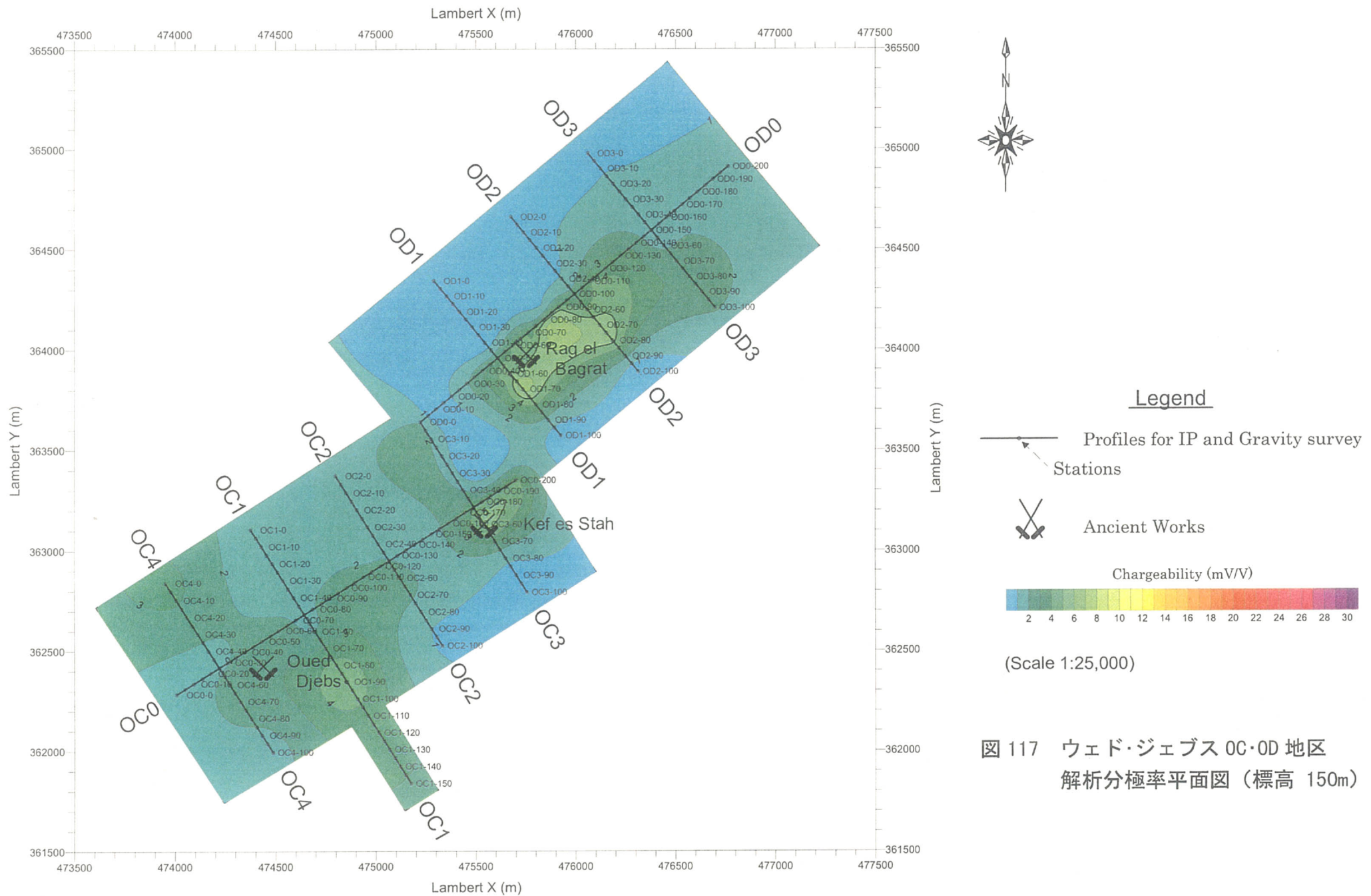


図 116 ウェド・ジェブス OC・OD 地区
解析分極率平面図 (標高 250m)



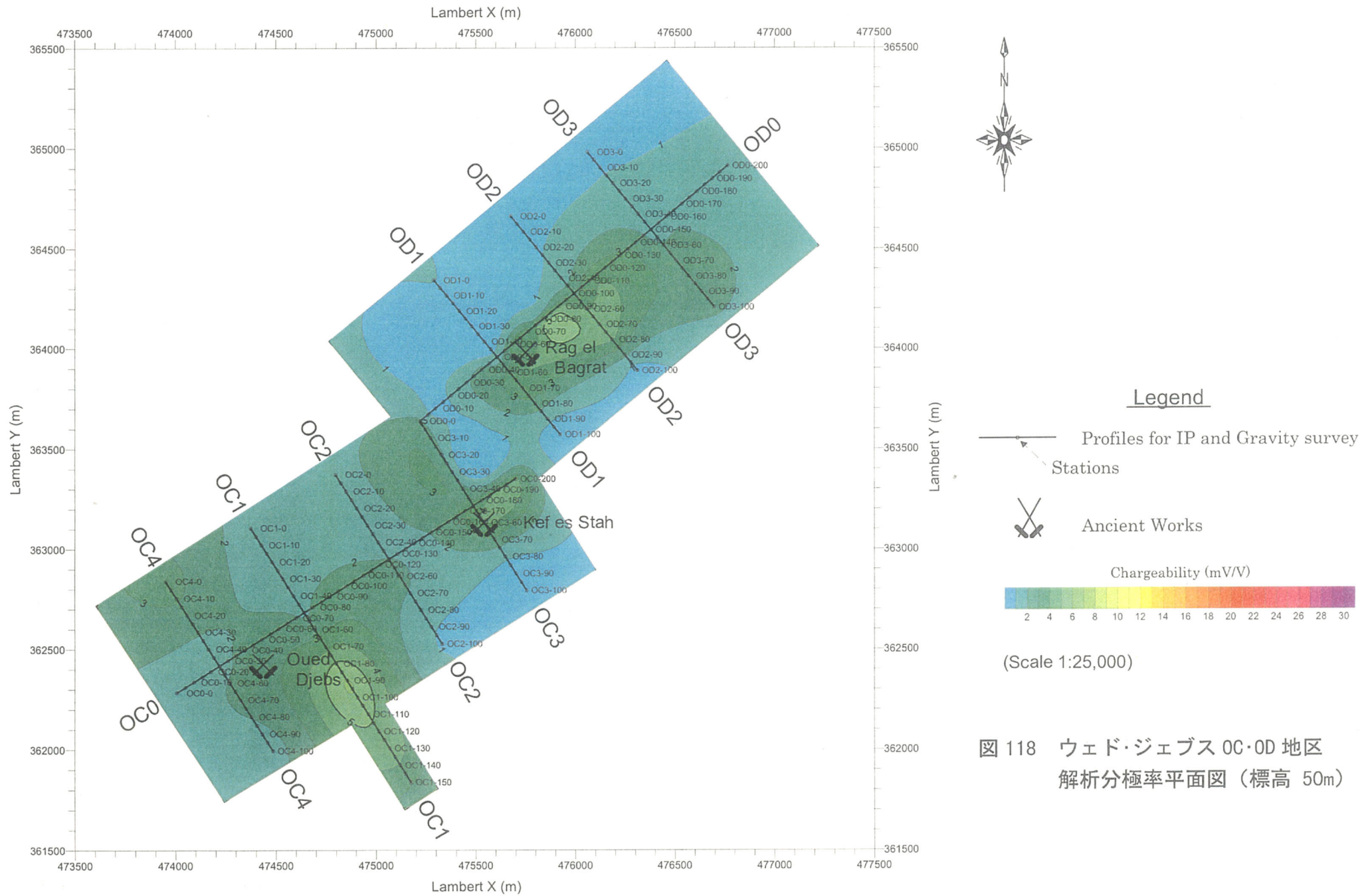


図 118 ウェド・ジェブス OC・OD 地区
解析分極率平面図 (標高 50m)

界部に位置する。

⑧ OC・OD 地区解析比抵抗平面図 標高 150m(図 114)

標高 250m の解析比抵抗平面図と大局的に同じような比抵抗分布を示している。両基線の北西側に広がる 100Ωm 以上の高比抵抗分布域の比抵抗はさらに高くなっている。高比抵抗分布域の南東側を断続的に続く低比抵抗異常は、OC 地区では比抵抗が高くなってあまり明瞭ではなくなっている。OD 地区では逆に比抵抗が低くなり、Kef Lasfar 及び Rag el Bagrat の各鉱徴地の南東側にある 10Ωm 以下の低比抵抗異常が大きくなっている。

⑨ OC・OD 地区解析比抵抗平面図 標高 50m(図 115)

標高 150m の解析比抵抗平面図と大局的に同じような比抵抗分布を示している。両基線の北西側に広がる 100Ωm 以上の高比抵抗分布域の比抵抗はさらに高くなり、南東側に広がっている。この高比抵抗分布域の南東側を断続的に続く 30Ωm 以下の低比抵抗異常は小さくなっている。調査地南西部の基線 OC0 と測線 OC4 の交点付近では、測線 OC4 に沿って NW-SE 方向に延びる低比抵抗異常が現れている。

⑩ OC・OD 地区解析分極率平面図 標高 250m(図 116)

OD 地区中央部の Rag el Bagrat 鉱徴地付近では、OD1-60 付近から OD2 の 70 付近にかけて NE-SW 方向に延びる 5mV/V 以上の分極率異常がある。OC 地区と OD 地区の境界部にある Kef es Stah 鉱徴地周辺にも 5mV/V 以上の小さな分極率異常がある。Oued Jebes 鉱徴地付近に分極率異常は認められない。

⑪ OC・OD 地区解析分極率平面図 標高 150m(図 117)

標高 150m の解析分極率平面図と同様に、Rag el Bagrat 鉱徴地周辺と Kef Lasfar 鉱徴地周辺には 5mV/V 以上の分極率異常がある。2 つの異常とも異常の大きさは小さくなっている。

⑫ OC・OD 地区解析分極率平面図 標高 50m(図 118)

Rag el Bagrat 鉱徴地周辺の 5mV/V 以上の分極率異常は小さくなり、Kef Lasfar 鉱徴地周辺から分極率異常はなくなっている。OC 地区南部の OC1-80~100 付近には 5mV/V 以上の分極率異常が現れている。

(e) 総合解析

本地区の IP 法探査で得られた結果を残差重力及び地質図とともに重ねて図 119~121 に示した。また、各断面の比抵抗と分極率を重ねた図を図 122~125 に示した。

(i) OA 地区(図 119, 図 122)

図 119 に示す平面的な各探査結果の関係は以下のとおりである。

基線 OA0 より北西側に広がる 100Ωm 以上の高比抵抗分布域は、三畳系の分布と良く対応する。室内試験結果から推定すると、この三畳系の地層にはドロマイトが多く含まれていると考えられる。良く対応しない部分は WNW-ESE 系又は E-W 系の断層周辺であり、断層に沿って低比抵抗が高比抵抗側へ延びてきている。このことは断層周辺では破碎帯が形成されていることを示唆していると考えられる。

残差重力は -0.05mgal 以下の領域が 100Ωm 以上の高比抵抗分布域と対応する三畳系の分布に近い。この低残差重力域は中央部の測線 OA3 と OA5 の間は南東側の白垂系へ張出している。この低残差重力域の張り出し部には WNW-ESE 系の断層が並んでいることから、低比

抵抗と同じように断層周辺では破碎帯が形成されていることを示唆するものと考えられる。

分極率異常は OA 地区南西部の Bou Mous 鉱徴地周辺にだけ現れている。この付近は白亜系が分布するものの、三畳系に対比される低残差重力異常が北側から張出している。三畳系に対比される 100 Ω m 以上の高比抵抗分布域の南縁部にも相当する。この付近の残差重力や比抵抗のコンターの形状は基線 OA0 と測線 OA2 付近を通る E-W 系及び NNE-SSW 系の断層の影響を受けている。測線 OA3 と OA4 の間にも E-W 系の断層があり、標高-150m では、この断層と基線 OA0 が交差する OA0-120 付近に 4mV/V 以上の弱い分極率異常がある。したがって、OA 地区の鉱徴に関連する分極率異常は E-W 系の断層と関係する可能性がある。

図 122 に示した総合解析断面図では、7mV/V 以上の分極率異常のある基線 OA0 の南西部 OA0-50~60 付近は北東側にある低比抵抗異常との境界部に相当する。重力断面解析結果の断層破碎帯と考えられる密度差-0.20g/cm³ と-0.05g/cm³ の低密度層に挟まれた高密度層中にある。これらも基線 OA0 と交差する断層が Bou Mous 鉱徴地周辺の分極率異常に関連することを示唆するものと考えられる。

(ii) OB 地区(図 120, 図 123)

図 120 に示す平面的な各探査結果の関係は以下のとおりである。

基線 OB0 の北西側を OB0 に沿って NE-SW 方向に延びる 10 Ω m 以下の低比抵抗異常の南東縁が三畳系と北西側の白亜系との接触部に良く対応する。この低比抵抗異常は第 1 年次のブルキナ地区、第 2 年次のバジナ・ケビラ地区、シリアナ地区で三畳系と白亜系又は第三系との接触部で捉えられた低比抵抗異常と同じような地質であると考えられる。本年度シリアナ地区で実施したポーリング MJTK-A1 孔内から採取した水が 98mS/cm という海水の 3 倍の導電率であったことから、これらの低比抵抗層は高導電率の間隙水で満たされていると考えられる。三畳系の南側に分布する第三系は高比抵抗を示している。Dar Chebka 鉱徴地は高比抵抗異常の南縁部に位置する。

OB 地区では、比抵抗分布と同様に残差重力と地質との直接的な関係は認められない。第三系の分布する OB 地区南東部では、OA2-100 付近や OB5-100 付近のように低残差重力が高比抵抗異常に対応する。測線 OB5 に沿って北西に延びる-0.05mgal 以下の低残差重力異常は第三系中にある NW-SE 方向の 2 本の断層と対応している。Dar Chebka 鉱徴地はこの低残差重力異常中にある。

5mV/V 以上の弱い分極率異常は OB 地区南東部の Dar Chebka 鉱徴地周辺から基線 OB0 北東端付近まで広がっている。測線 OA4 の IP 法探査は実施していないので北東側の分極率異常の広がりについて今後検討が期待される。その異常の中心に 7mV/V 以上の分極率異常が Dar Chebka 鉱徴地の北西側に現れており、断層に挟まれた低残差重力異常に関連があると考えられる。測線 OB2 の北西端付近にも 5mV/V 以上の弱い分極率異常があるが、この付近は第四系に覆われているため、有意な異常かどうかについては断言できない。

図 123 に示した総合解析断面図では、Dar Chebka 鉱徴地を通る測線 OB5 と南西側に隣接する測線 OB3 は同じような分極率分布を示し、中央深部に 5mV/V 以上の分極率異常が広がっている。この異常は高比抵抗中にあることから地表に分布する第三系の下位には白亜系

が分布しているかもしれない。両測線とも最高標高点の 110 付近で分極率が高くなり、浅部まで上昇してきている。Dar Chebka 鉙徴地は 5mV/V 以上の分極率異常の南東端に位置する。

(iii) OC・OD 地区(図 121, 図 124, 図 125)

図 121 に示す平面的な各探査結果の関係は以下のとおりである。

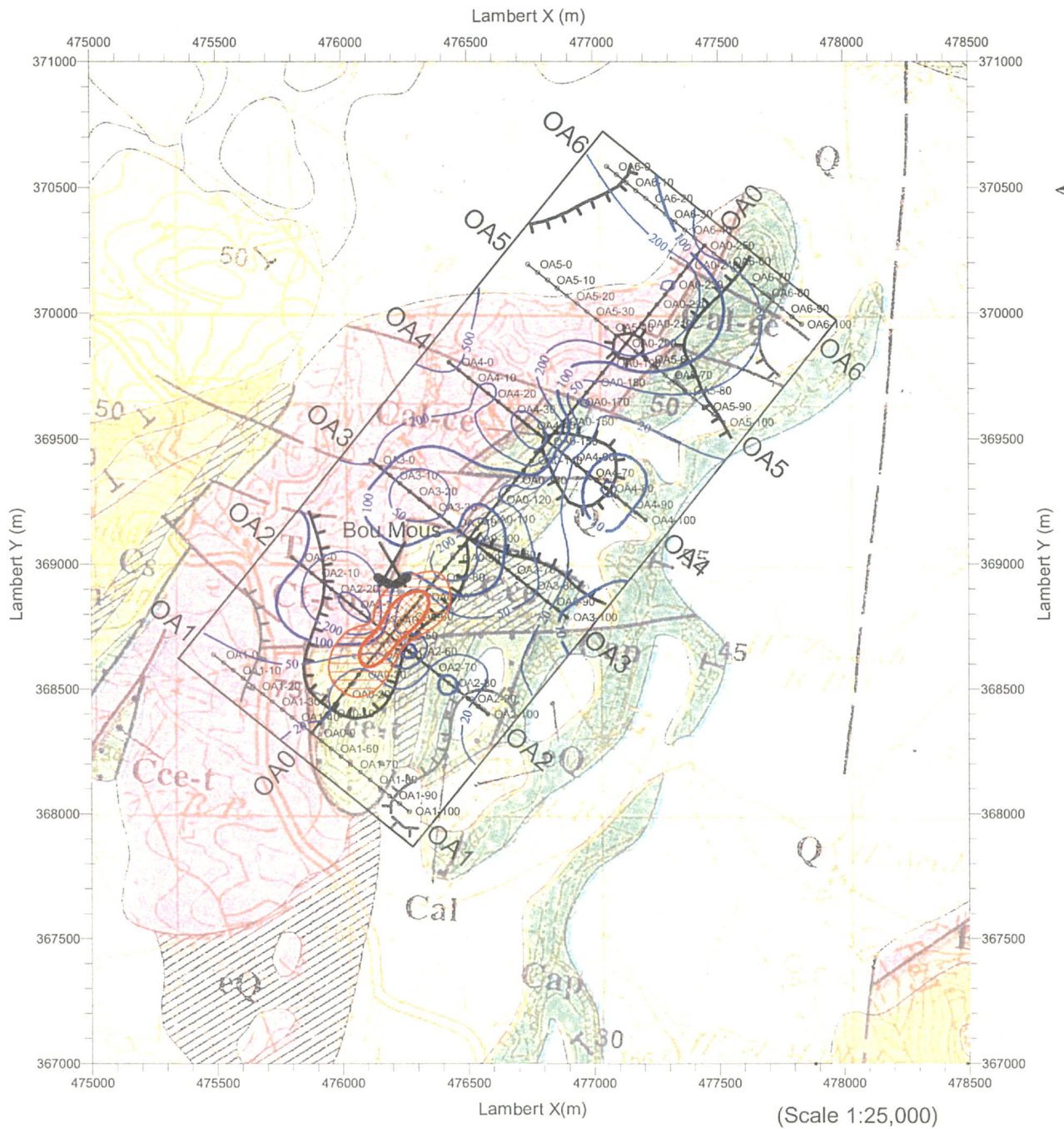
OA 地区同様、基線 OC0, 測線 OC3 及び基線 OD0 より北西側に広がる 100Ωm 以上の高比抵抗分布域は三畳系の分布と良く対応する。高比抵抗の原因は三畳系にドロマイトが多く含まれていると考えられる。北東部の OD 地区ではこの高比抵抗部が南東側の白亜系分布域まで張り出していることから推定すると、第三系の下に白亜系が分布している可能性もある。この高比抵抗分布から、OC 地区と OD 地区の境界部にある NW-SE 系の断層によって大きくズレていることがわかる。この断層の北東側は破碎帯を示唆するような低比抵抗異常となっている。Oued Jebb, Kef Lasfar 及び Rag el Bagrat の各鉙徴地は高比抵抗分布域の南東縁部に位置する。

残差重力では OA 地区とは逆に 0.5mgal 以上の領域が 100Ωm 以上の高比抵抗分布域と対応する三畳系の分布に近い。断層周辺では、低残差重力異常を示しているところが多い。OC 地区と OD 地区の境界部にある NW-SE 系の断層の北東側では Rag el Bagrat 鉙徴地周辺で、OB 地区の Dar Chebka 鉙徴地付近のように、南東から北西へ延びる -0.05mgal 以下の低残差重力異常がある。この低残差重力異常は低比抵抗異常にも良く対応することから断層によって生じた亀裂帯を示唆していると考えられる。OD0-120 付近や OC2-60 付近の 0.05mgal 以下の低残差重力異常の近傍にも断層があり、これらも断層による亀裂帯であると思われる。あまり明瞭ではないが、南部の OC0-90 付近と OC2-70 付近を通る N-S 系の断層の東側は低残差重力、低比抵抗を示す傾向がある。

5mV/V 以上の分極率異常は Rag el Bagrat 鉙徴地周辺と Kef Lasfar 鉙徴地周辺の浅部と OD1-100 付近の深部にだけ現れている。Rag el Bagrat 鉙徴地周辺の浅部と OD1-100 付近の深部の分極率異常は低比抵抗、低残差重力の内部に位置し、断層周辺の亀裂帯と関連していることを示唆している。Kef Lasfar 鉙徴地周辺では比抵抗も残差重力も急激に変化している部分に小さな分極率異常が位置する。ウエド・ジェブス地区最大の鉙徴地である Oued Jebb 鉙徴地周辺には分極率異常は認められないことから、この鉙徴の深部への広がりには期待できないと思われる。

図 124 に示した OC 地区の総合解析断面図では、測線 OC1 の OC1-90 付近に断層を示唆するような比抵抗境界線と密度差 -0.07g/cm³ の低密度層があり、5mV/V 以上の弱い分極率異常が深部にある。測線 OC3 では断層を示唆するような OC3-70 付近の比抵抗不連続線の北西側に位置する。Kef Lasfar 鉙徴地周辺の表層には白亜系と考えられる高密度、高比抵抗層がありその下面付近に分極率異常が位置する。

図 125 に示した OC 地区の総合解析断面図では、測線 OD1 と OD2 の南東部に 5mV/V 以上の高分極率異常がある。両測線とも白亜系に対比できる北西側の高比抵抗で高密度の地層と第三系に対比できる低比抵抗で低密度の地層との境界部に分極率異常が位置している。



Legend

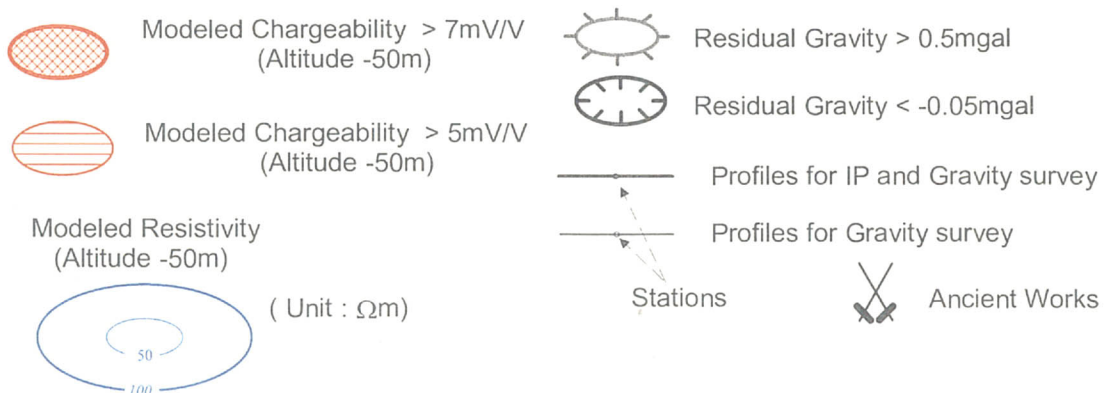
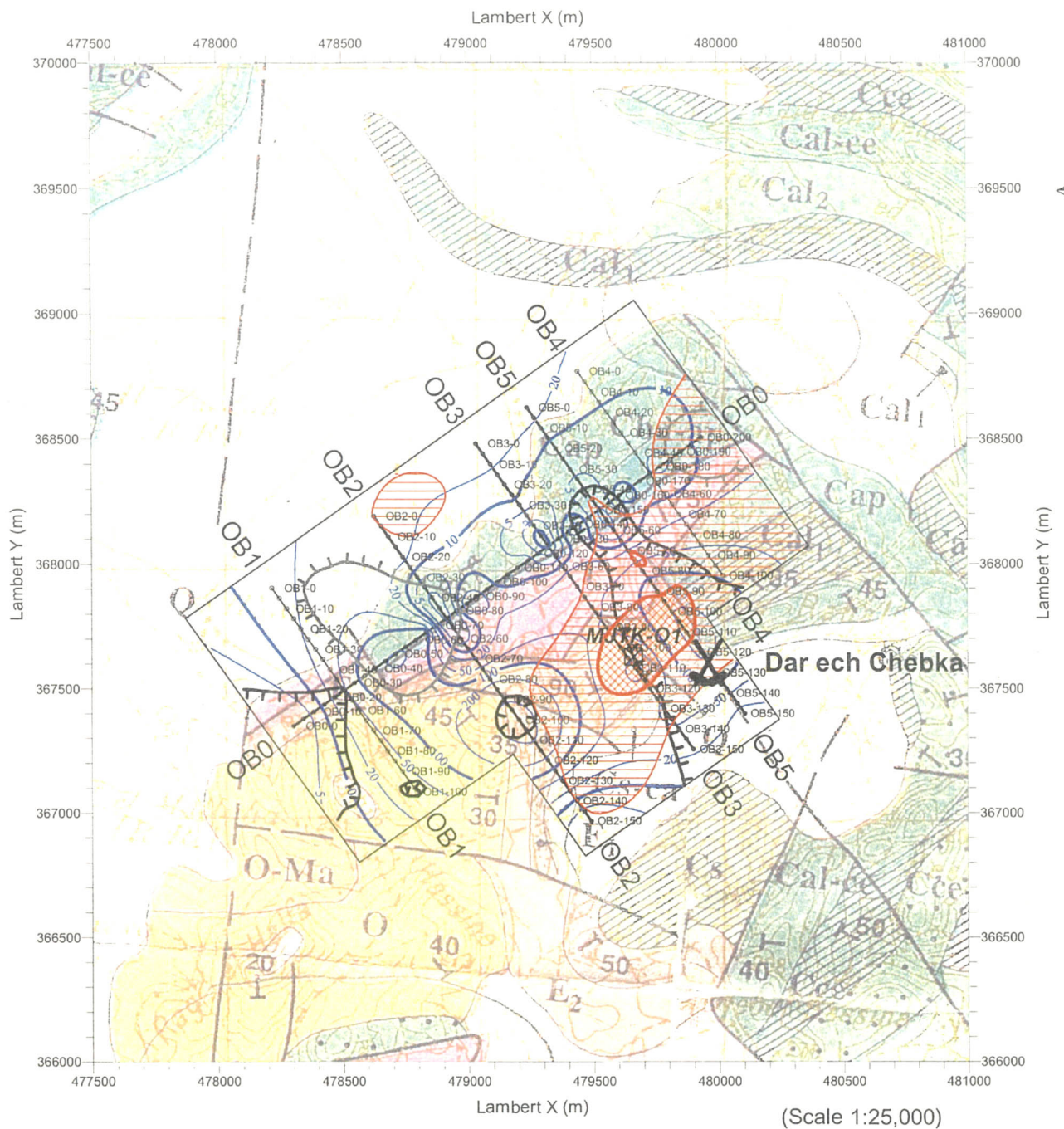


図 119 ウェド・ジェブス OA 地区 IP 法総合解析図



Legend



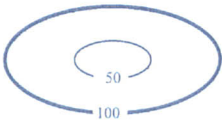







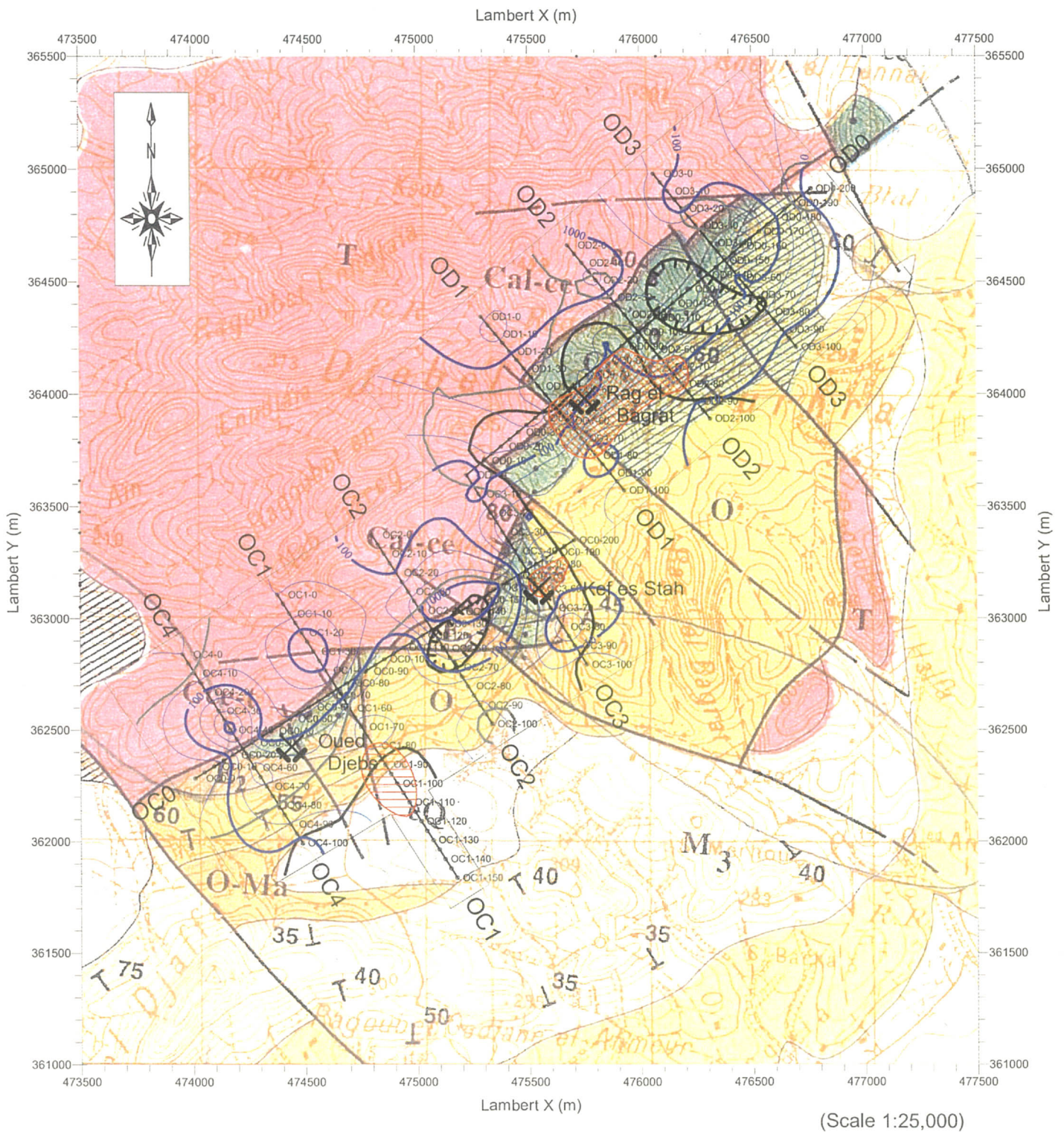
-  Modeled Chargeability > 7mV/V (Altitude -150m)
-  Modeled Chargeability > 5mV/V (Altitude -150m)
-  Modeled Resistivity (Altitude -150m) (Unit : Ωm)
-  Residual Gravity > 0.5mgal
-  Residual Gravity < -0.05mgal
-  Profiles for IP and Gravity survey
-  Profiles for Gravity survey
-  Stations
-  Ancient Works
-  Diamond Drill-Hole

図 120 ウェド・ジェブス OB 地区 IP 法総合解析図



(Scale 1:25,000)

Legend





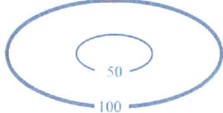




- | | | | |
|---|---|---|------------------------------------|
|  | Modeled Chargeability > 5mV/V
(Altitude 250m) |  | Residual Gravity > 0.5mgal |
|  | Modeled Chargeability > 5mV/V
(Altitude 50m) |  | Residual Gravity < -0.05mgal |
|  | Modeled Resistivity
(Altitude 150m)
(Unit : Ωm) |  | Profiles for IP and Gravity survey |
| | |  | Profiles for Gravity survey |
| | |  | Stations |
| | |  | Ancient Works |

図 121 ウェド・ジェブス OC・OD 地区 IP 法総合解析図

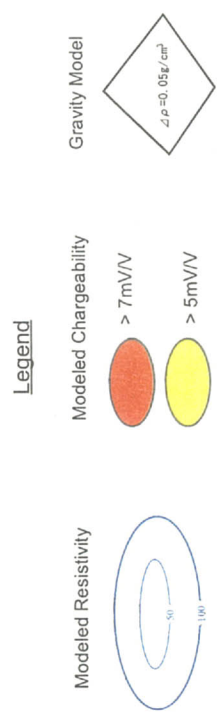
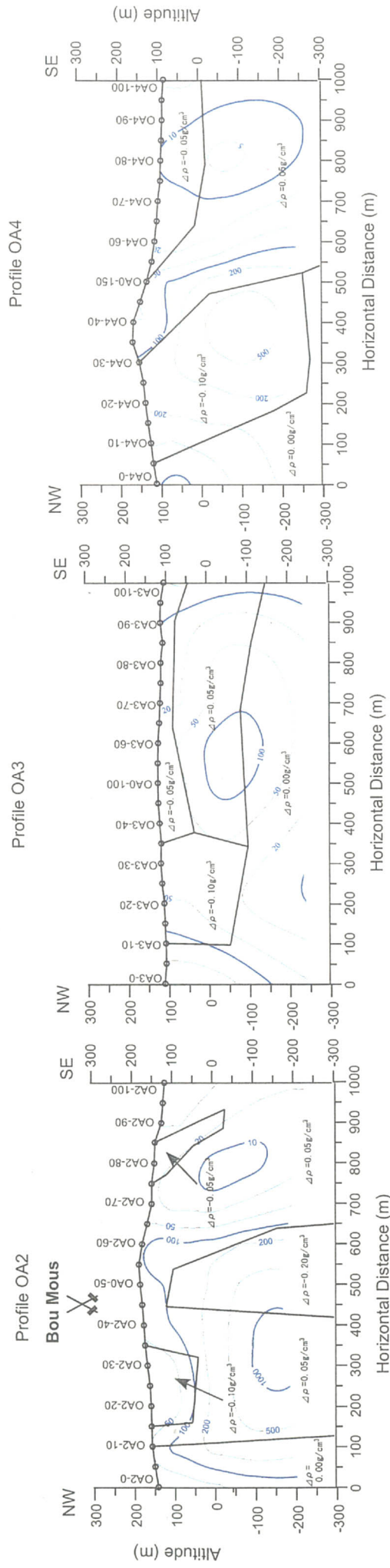
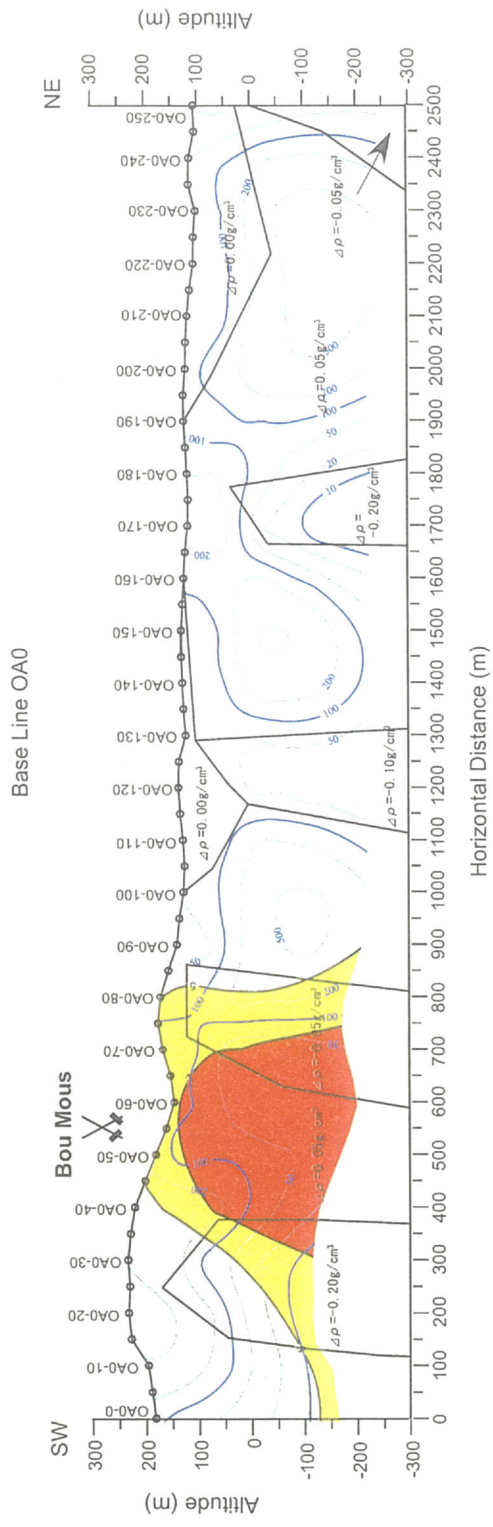


図122 ウェド・ジェブス0A地区IP法総合解析断面図 (OAO, OA2, OA3, OA4)

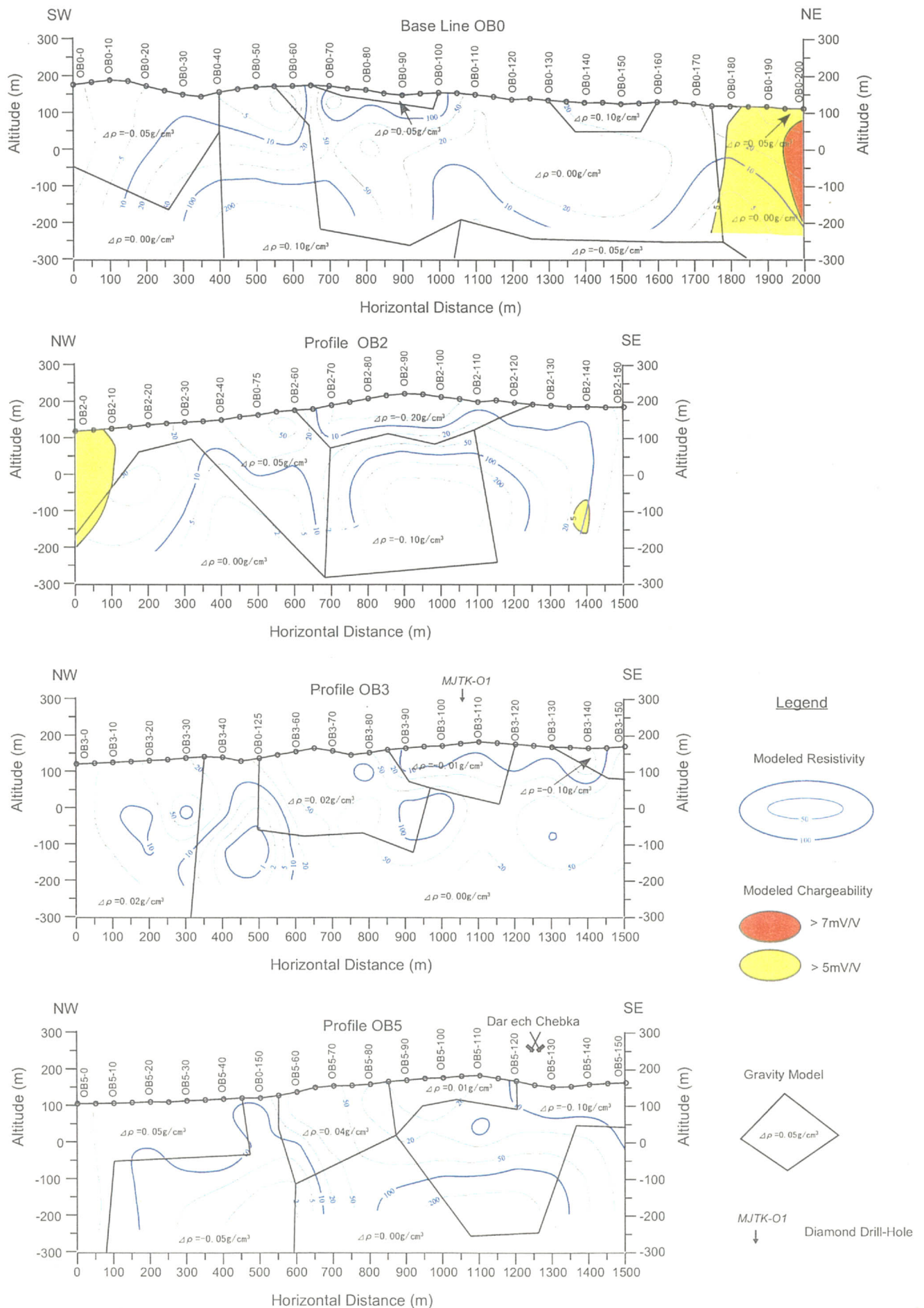


図123 ウェド・ジェブスOB地区IP法総合解析断面図 (OB0, OB2, OB3, OB5)

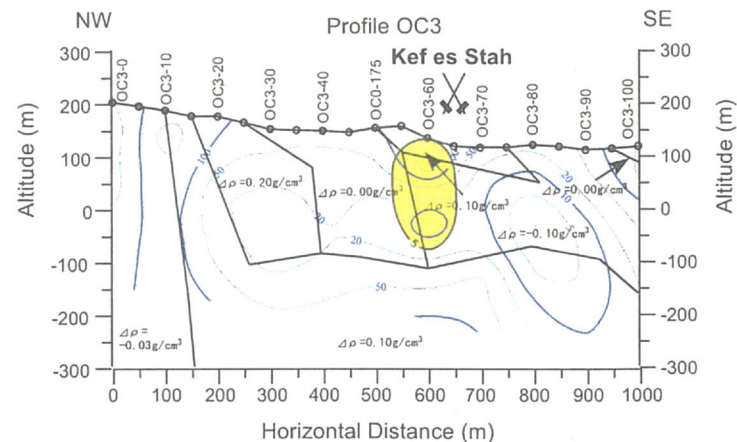
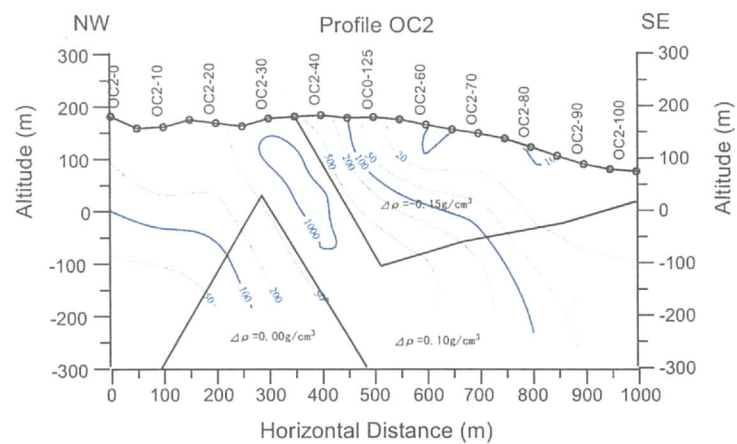
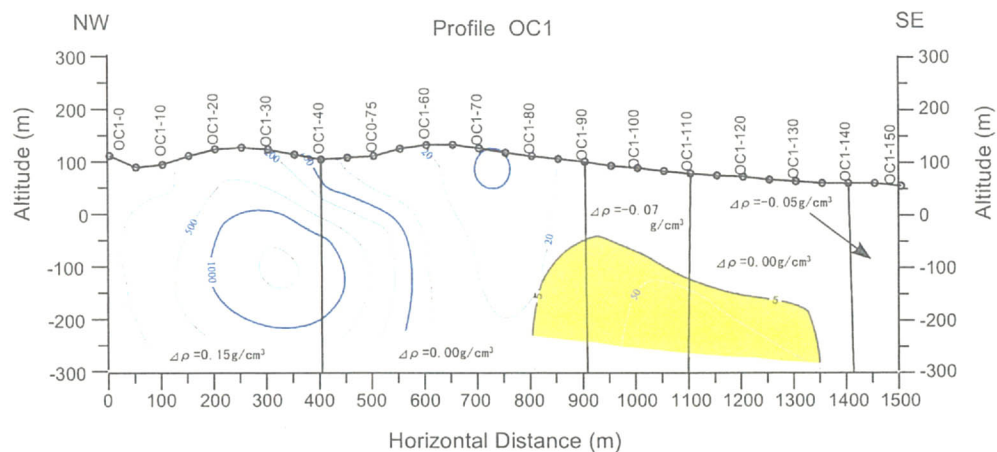
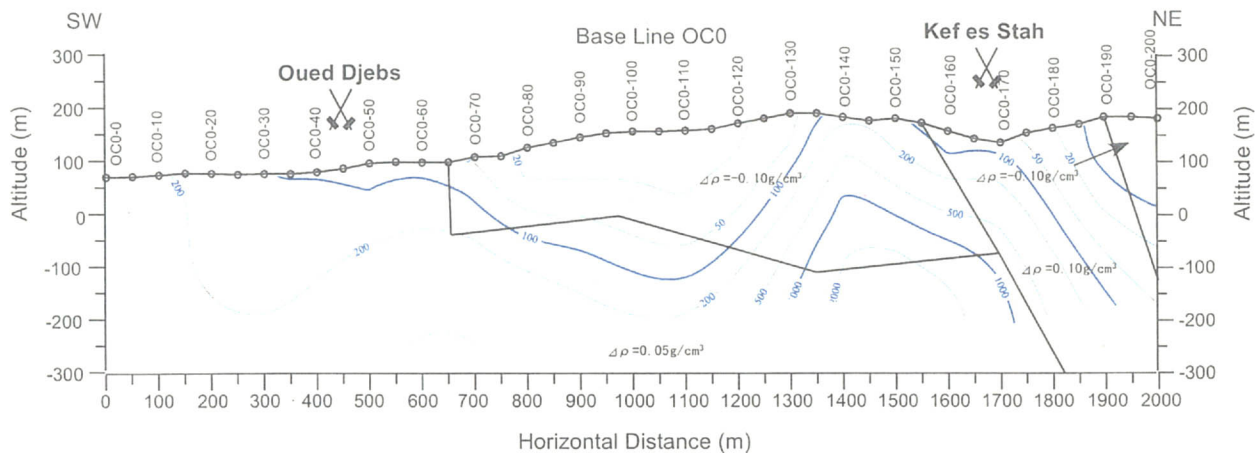


図124 ウェド・ジェブスOB地区IP法総合解析断面図 (OC0, OC1, OC2, OC3)

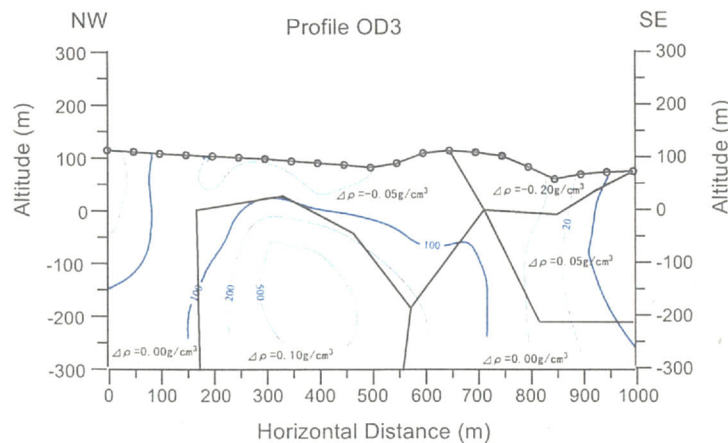
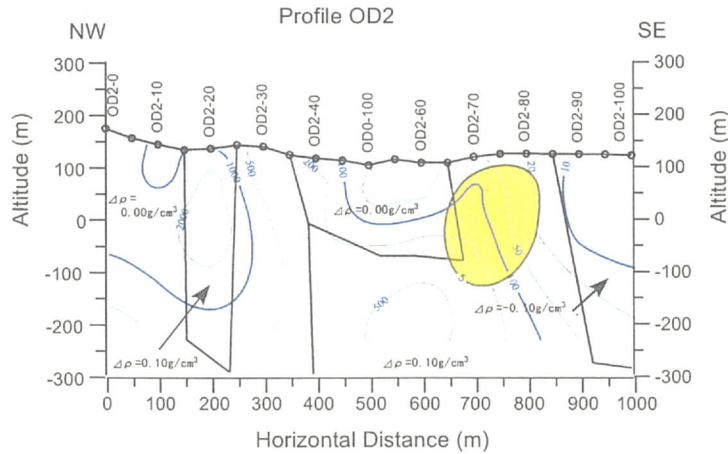
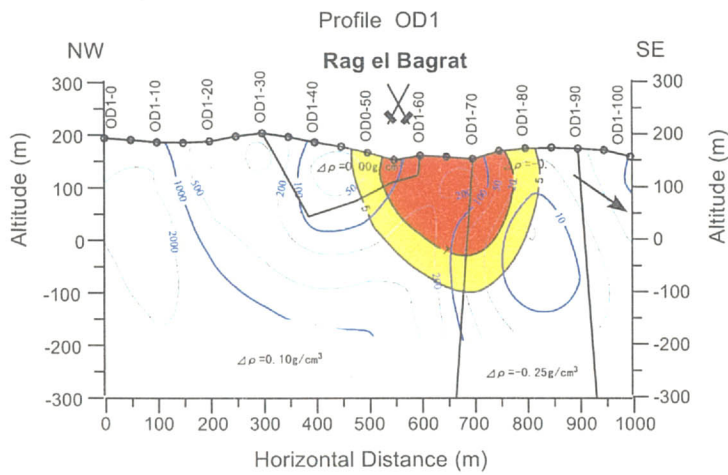
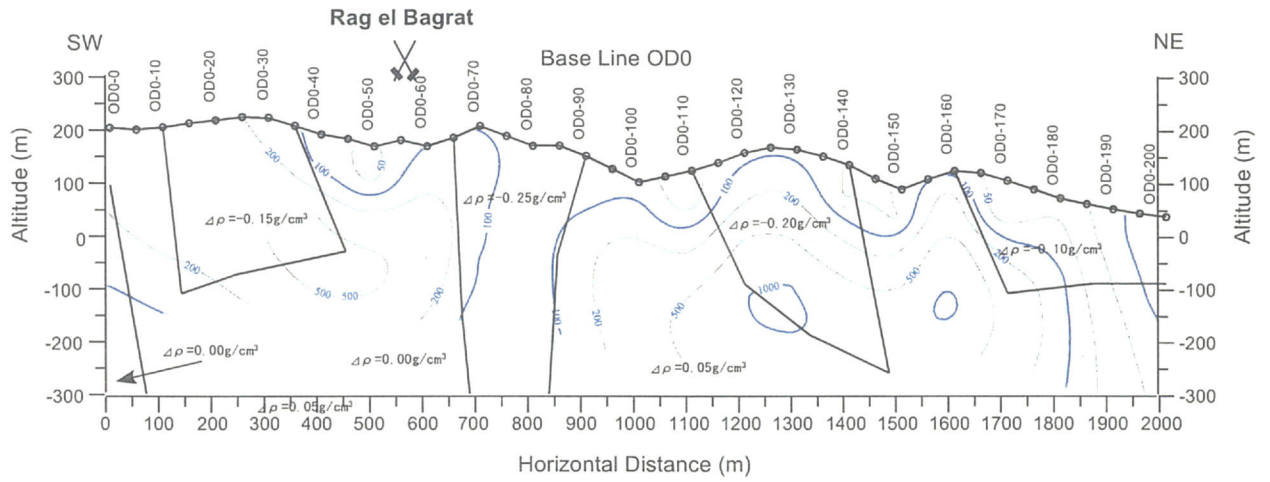


図125 ウェド・ジェブスOB地区IP法総合解析断面図 (OD0, OD1, OD2, OD3)